

## 見る人の心を掴む自治会広報紙

都営江東橋四丁目アパート自治会



写真とイラストがいっぱいの広報紙。福田さんの明るいお人柄が出ています。



AED訓練の様子も生き生きと。「テンポ良く4・5・6」

### ポストに届く手づくりのあたたかさ

紙面に踊る鮮やかな写真、イラスト、人々の笑顔。都営江東橋四丁目アパート自治会広報紙担当の福田富美子さんが作られる広報紙はそんじょそこらのものとはひと味もふた味も違います。

福田さんの秘密兵器は何とワープロ。写真は一つ一つハサミで切り抜き配置され、人物には吹き出しでセリフがつき、モノクロのイラストは色鉛筆で彩色。アナログの極みが逆に新鮮さとあたたかさを宿し、見る人の心を掴みます。10年以上続くこの独自の広報紙の発行についてお話を伺いました。

「最初引き受けた時、それまでの紙面は文字だけだったの。全部文章だと大変よね、考えるのが。でも前自治会長がイラストや写真をいっぱい載せてくれてって言ってくれたから、よっしゃあ！って。」と福田さんは笑います。

### 記憶と歴史が輝く思い出の宝箱

自治会の皆さんは大変じゃない？と声をかけてくれますが、福田さんは「自分の思い通りにやってるから逆にストレス解消なのよね。皆さんも協力してくれるので、全然大変じゃないんですよ。」と断言。可愛い我が子のアルバムを見るかのように過去記事を綴じたファイルに目を細めます。

発行は奇数月で年に6回、約220世帯全てに配られます。福田さんは様々な行事に参加する度にカメラを持って記事のタネを拾い、毎年繰り返される行事でも視点を変えて描き出していきます。「もう自治会の8～9割が高齢者世帯。なので、字もどんどん大きくしているんですよ。これ以上大きくなったら記事書けなくなっちゃう。」と笑う福田さんが作るにぎやかであたたかい紙面は、広報紙を超えてみんなの記憶と歴史が輝く思い出の宝箱になっているのです。



「このときはね...」写真で見るとすぐに当時のことが思い出せます。



「素敵なことを取り上げられるよう、いつもアンテナ張ってるの」と福田さん。